

大阪公立大学 商学部 商学科

○受験勉強

1年生の時は部活動で精一杯だった上、疲れと睡眠不足で授業すらまともに聞けていないことが多く、一度数学で赤点を取ってしまった。2年生からは心を入れ替えて勉強にも力を入れたが、基礎が出来ていないので模試の成績は思うように伸びなかった。そこで3年生の春からは基礎を徹底的に固め直した。引退後は勉強時間を大幅に増やしたが、それでも他の人より少ないと自覚している。スマホ、遊び、睡眠の誘惑にはあまり勝てなかった。しかしその分、勉強する時は集中したつもりだ。スキマ時間も無駄にせず世界史と英単語を覚えた。また、塾に通ってはいたが学校の授業を大切にし、スパートゼミ、夏期・冬期講習、国公立二次対策講座を受講し、多角的に指導を受けられたのも効果的だったと思う。あまり追い込みすぎず、メリハリをつけることで心身のバランスを保つことができた。受験直前は、勉強時間を少し減らし、その分を睡眠時間に充てた。

○志望校決定

国公立大学希望で、当初は他大学・他学部を検討していた。将来とりわけ就きたい職業はなかったが、だからこそどんな業種でも必要となる知識を学べて幅広い選択が可能となり、そして何よりも、自分に足りない企画力・表現力を身に付けられる商学部に魅力を感じ、自宅から通学可能な大阪公立大学商学部を志すことにした。時すでに3年の7月。かなり遅い決定だが、全教科の勉強をしていたので特に変化はないと思っていた。しかし能天気な性格ゆえ、二次試験に大の苦手である数学が必要だと知ったのは決定の1か月後である。共通テスト対策だけでは足りないことに恐怖を感じたが、もはや引き返せず腹をくくった。

○後輩へのアドバイス

まずは基礎を固めた上で、志望校を決めたら、必要科目等をきちんと調べ、早くその対策を講じて下さい。そのためにも、多くのオープンキャンパスに出向くことをお勧めします。

京都工芸繊維大学 工芸科学部

物質・材料科学域 応用化学課程

僕は6月頃まで部活をしていました。進路決定も同じくらいの時期でした。進路決定の方法は、まず僕は化学が好きだったので、大学でも化学を勉強したいと思いました。そのことから応用化学課程に行きたいと考えました。従って、第一志望の国公立大学も滑り止めの私立大学も応用化学課程がある大学を選びました。

次に学習方法ですが、部活を引退した後、朝起きる時間を30分早くし、今までよりも30分早く学校に行き、朝から教室で勉強をしていました。休み時間は課題をしたり、先生に質問をしたりすることもありましたが、友達と話しているときの方が多かったと思います。僕的にはそういう時間も大切だと思います。放課後は僕は塾に通っていませんでしたので毎日最終下校まで学校に残り、友達と一緒に勉強をしていました。

学習内容ですが、数学、化学は問題集を活用し、英語は英単語を重点的に、地理、国語は過去問を解き、分からなかった部分を資料集などで復習していました。

参考書は、基本的に学校で購入したものを使用していました。ですが、僕は英語が苦手なので、共通テストの英語の過去問集を買いました。

受験期に悩んだことは、大きく分けて2つあります。

1つめは、英単語や古文単語が全然覚えられないことです。最後まであまり覚えられていませんでしたが、僕的な解決策は分からない単語を単語帳にし、隙間時間を見つけて、ただひたすらくりかえすことです。

2つめは、模試の判定が全然良くなりません。実際、判定はずっとE判定で、共通テストの判定もEやDばかりでした。しかし、判定を気にする必要は全くないと思います。僕も逆転合格していますので。模試で大事なことは、模試を受けることよりも、かえってきた模試をどう復習するかです。

最後に、勉強のために何かをあきらめる必要はないと思います。部活も文化祭も体育祭も友達との雑談も、何事でも全力で取り組んで心のままに楽しめばいいと思います。それができる人はめげずに最後まで走り抜けると思います。

京都大学 理学部

3年生になる前から自学自習の習慣を身につけられたことが、志望校合格につながった最も大きな要因です。日常生活の中で気になったことは何でも調べ、自分自身のものとして蓄積することで、より深い学びができるとともに、自らの力で学問を習得するよい練習になりました。1・2年生のときは、オンライン動画共有プラットフォームを用いて講義を視聴したり、大学の専門書を購入して学習を進めたりするなど、高校の分野にとどまらない発展的な学習も行い、それを通じて自学自習を習慣づけていました。また、発展的な内容に触れることで、大学での学習を思い描くことができ、勉強をするというモチベーションをアップさせることにもつながりました。さらに、この習慣を身につけたおかげで、家庭でも勉強に集中できるようになり効率的に学力を高めることもできました。自らの頭で考え、学問を身につける。この学びの原点に帰って学習を続け、志望校合格を目指してください！

大阪公立大学 農学部 生命機能化学科

○進路決定について

私は化学が好きで、将来は化学の知識を生かせる仕事をしたいと思っていました。そのような職業をインターネットで調べていく中で、食品開発者として働きたいと思うようになりました。色んな大学を調べたところ、大阪公立大学農学部には食品分野のエキスパートを目指すための副専攻が組まれていることを知り、この大学を志望することにしました。

○勉強方法とおすすめの問題集

＜数学＞ 数学は授業中にたくさん学ぶことがあったので特に集中して授業を受けていました。また、サクシードやチャートを解けるようになるまで何周もし、解法の定石を頭に入れていました。その後過去問などを使って公式や定石をどのように組み合わせて解けば良いのかをじっくり考えて思考力を鍛える練習をしていました。

＜物理＞ 物理はとても苦手だったのですが、高3の初めに「物理のエッセンス」をやり始めてから模試の成績が伸びました。そしてその後「良問の風」から「名門の森」と問題集を変えていきました。やり方としては、載っている問題全て見た瞬間に解法が浮かぶくらいになってから次の問題集にうつるという感じでした。この3冊はもっと早く買っておけばよかったと思うくらいおすすめです。

＜地理＞ 地理は、「地理Bの点数が面白いほどとれる本」と地図帳を使って知識を地図帳に黒のサインペンで最終的には地図帳が真っ黒になるくらい書き込みました。そのあとは地図帳を何度も見てインプットしていました。そして、白地図に何も見ずに自分の持っている知識を書き込んだ後、地図帳を見てまだ自分が覚えていない知識を赤ペンで白地図に書き足すという作業を繰り返してアウトプットをしていました。

○最後に

全体を通して言えることは、勉強においては常に謙虚でいるべきだと私は思います。理解できていなかったことや間違ったことを潔く認め、計算ミスなどの些細なミスでもしっかりと向き合い、答えを読んで理解するだけでなく、手を動かしてやり直すという作業を大事にして欲しいです。受験は思い通りにいかないことの方が多いと思います。辛いこともたくさんあると思いますが、辛い時は頑張りすぎず、友達や先生に頼ったりしながら進路実現のために努力を続けてほしいと思います。

京都教育大学 教育学部 幼児教育学科

○《面接》

学校：とにかくいろんな先生にお願いをして本番同様スタイルで6・7回練習をした。

家：鏡に向かってはきはきと話せるように視線をそらさない練習をした。

家族に面接官役をしてもらった。

★マイノートを作って聞かれそうな質問を自分で書き出し、友達や先生に幼児教育関係または入試で聞かれそうなことを考えてもらい、すべて書き出して、どんな質問が来ても応えられるようにアンサーを書いていた。また志望動機書の内容を掘り下げて聞かれたときに応えられるようにノートを作っていた。

○《小論文》

過去10回分(地域指定推薦5年分+学校型推薦5年分)を解いた。

また、他の大学の教育関係の過去問も解いた。

毎日幼児教育についての情報をインターネットや本、新聞から集めた。

→自分だけのオリジナル入試対策マイノートを作ってまとめていた。

📌Point

- ☐ しっかり時間を測って解く←常に時間以内に解くこと意識 練習あるのみ
- ☐ 漢字を間違えないようにする←初歩的なミスを省く間違えたものは何回も書いて覚える
- ☐ 文末表現(言葉選び)やフレーズのテンプレートを頭に入れておく！

○《悩んだこと》

小論文は正解が何かわかりにくいためあっているか不安になる

→問題出題者が求めているポイントやワードにふれているかが点数につながる。カギとなるポイントやワードは本文中に必ず隠されているから何度も過去問を解きなれることが大切！また、知識が多ければ多いほど解きやすい問題もあると思う。

○《苦労したこと》

共通テスト対策と推薦対策を並行で行わなければいけなかったこと

→周りのみんなは共テ対策に時間を使っている中で、自分は推薦対策をしていて「このままで大丈夫なのか？」「みんなのレベルにおいていられないか？」等、不安だったけれど、自分の中で今は共テ対策の時間、今は推薦対策の時間と決めて行った。しっかり計画を立てて切り替えて行うことで効率よく勉強ができたので計画を立てることをおすすめ！

○《後輩へのメッセージ》

『努力は必ず報われる』

自分が死ぬ気で、「もうこれだけやった、あれだけやったから大丈夫」って心からやり切ったならそれ相応の結果がついてくると思う。心を鬼にして自分に厳しく、甘えを一切許さないようにして臨めば、必ず最後に自分がやってきたことが目に見える形で表れてくれる。受験期は時に頭が狂ったようになるし「やっていて意味あるのかな」「もうどこでもいいや」とか弱い自分も出てくる。でもそこでどれだけ踏ん張れるか。もう一人の厳しい自分が「今やれば何かが変わる」「とりあえずもう少し頑張ってみよう」って自分自身に話しかけて、やる気にさせられるかが大事！！意志の強いものが勝つ。自分を信じて突き進め！できるかできないかじゃなくてやるかやらないか。時間があるとき、たった1分でもいい。自分に何ができるか、それを行動にうつせるかでこれからの未来につながると思う。自分の中で1分あったら単語を覚えるなど先に決めてしまっておくのがいい！頑張っているのはみんな一緒。頑張っている自分を褒めてあげてもう一步頑張ってみよう！！みんなならできる。大丈夫。

早稲田大学 人間科学部 人間環境科学科

○進路決定の時期と方法

私はアニメや漫画などのポップカルチャーが好きで、そういった文化に関わる仕事、特に出版社への就職を目標に志望校を逆算しました。中学の地理で習った「出版系の会社は東京に集中している」という知識から関東圏(特に都内)の大学に絞り、また「出版」という職業の特性から文系の学部への進学を決めました。一年から二年の夏頃までは国立の大学を志望していましたが、数学の伸び悩みから国英世の3教科で受験出来る私立の早稲田大学に早い段階で切り替えました。

○受験に向けての具体的な学習内容

私が本格的に受験勉強に取り組み始めたのは三年になってからでした。私が受験勉強を始めて最初にしたことは二年までの復習でした。特に世界史を重点的に取り組みました。具体的には、授業プリントの内容をノートに手書きでまとめ直し、電車などの移動時間に見て覚えるということをしました。この勉強法は時間がかかりましたが、苦手な分野だけでもノートにまとめることは有効だと思います。また、私立の難関大では授業や教科書の内容では足りないので、資料集や用語集も積極的に活用しました。

○使用した参考書や問題集

世界史では、学校で使っていた教材と塾の教科書を併用し、市販の参考書や問題集は使いませんでした。英語では、「東大英単語熟語鉄壁」という単語集と「速読英熟語」という熟語集を使っていました。早慶や上智などの私大では東大京大と同等、またはそれ以上の単語力が求められるため、「鉄壁」を完璧にすれば一気に長文が読めるようになります。

○悩んだこと、アドバイスなど

私は第一志望の模試はほとんどE判定でした。何回も諦めかけました。みなさんの中でもこれから同じ経験をする人は多いと思います。ただ、そこが本当に行きたい大学なら、最後まで目標を貫き通して欲しいです。現役生はラスト1ヶ月で大きく伸びます。もし心が折れそうになったら、オープンキャンパスに行ったりそこで撮った写真を見返したりしてください。もう一度やる気が出ればまだチャンスはあります。みなさんが来年の春、笑って過ごせることを心から祈っています。

京都府立大学 文学部 和食文化学科

○進路決定について

高3の春に、将来やりたいことがないなら、好きな教科から大学で学びたいことを決めたら良いと教えてもらい、私は国語が好きなので、文学部にしました。そして、夏休みにオープンキャンパスに行って大学を決めました。しかし最終的には、二次試験のことを考慮して、第一志望ではないところに出願しました。でも私は、自分の進路に満足しています。だから、将来のことは考えず今好きなことで進路を決めて良いと思うし、思い切って志望校を変えるのもありだと思います。

○受験勉強について

高3の8月まで部活をしていましたが、ハードな運動部だったので、時間も勉強する気力もなかったです。高3の6月までは、テスト前しか勉強していませんでした。逆に言うと、私は3年間、毎日の授業とテスト勉強だけは、しっかりやっていました。

○アドバイス

勉強時間を記録すると良いと思います。時間を計っている間は、ぼーっとできないし、たくさん勉強したと分かると嬉しいからです。また、やる気が出ない時でも、これだけはできるというものがあると良いと思います。私の場合、11月末までは英単語と古文単語、12月以降は日本史の一問一答でした。

○最後に

本格的に受験勉強を始めた7月以降、体調が悪かったり、気持ちが沈んだりして、1分だって勉強できない日もたくさんありました。どうしても頑張れない日の埋め合わせをしてくれたのは、授業やテストを頑張っていた1、2年生の自分です。しかし、当時の私は、受験勉強の埋め合わせになることを予想して勉強していたわけではありません。ただ、目の前のことにまじめに取り組んでいました。

手を抜こうと思えばいくらでもいい加減にできる目の前のことに、精一杯頑張れる人は、明るい未来に向かって進んでいる人だと思います。だから今、うまくいなくて辛くても、頑張っても意味ないと思っても、きっと未来は明るいから、大丈夫です。

神戸大学 文学部 人文学科

私が受験勉強で最も重要視したのは十分な睡眠時間を確保することだった。

私の周囲で睡眠時間を重視している受験生はそれほど多くなかったように思える。というより受験生が睡眠時間を軽視すること自体が珍しくないだろう。一般的な受験生のイメージとして、徹夜で勉強する学生の姿を思い浮かべる人も多いかもしれない。さらにいえば、睡眠時間を削っての勉強しか経験してきていないがために、睡眠時間を十分に確保したうえでの勉強法や、受験生が睡眠をとるメリットについて、考えようとしない人が社会に広く存在するように思われる。

もちろん睡眠不足の状態で行う勉強に意味がないというわけではない。しかし、よく寝て、頭のさえた状態で勉強することによって、勉強時間以上のさらなる価値を生むことができるのではないか。これはスポーツにおいて休息が重要であることと同様である。睡眠を十分にとることによって脳をしっかりと休めることができ、より勉強の効率を上げることができる。逆に言えば、眠たい状態で行う勉強は勉強した時間は増えても、費やした勉強時間ほどの力を得ることができないのではないだろうか。

私は時間をかけたことによって勉強した気になっているだけで費やした時間相応の実力が身につかず、ただ時間を浪費しただけという状態になることを恐れていた。睡眠を重要視したのはそうならないためだ。十分に睡眠をとることによって勉強を有意義なものにできると信じていたし、効果を実感できた。例えば、問題演習の直後など頭が疲れて思考力が低下してきたと感じた際はすぐに睡眠をとった。また、暗記勉強をした後はなるべく早く寝て、覚えるべき事柄がより頭に残る様にした。

もちろん睡眠だけではない。散歩やストレッチなどで体を緊張状態から解放する時間を作ったり、精神的にリフレッシュできるような時間を作ることも重要だと思う。受験は長く陰しいものであるだろう。勉強のことだけを考えてしまって、勉強していない時間を机に向かうことで埋めようとしてしまうかもしれない。しかし、そういうときにこそ、勉強以外のことに目を向けることで、勉強面でもプラスの結果を生むことができると思う。

滋賀県立大学 工学部 機械システム工学科

○進路決定の時期と方法

私は幼い頃から車や鉄道などに興味があり、将来それらの分野に携わる仕事をしたいことや、家から通える国公立大学に進学したい事が決め手となって、1年生の時に工学系の大学に進学することを決めました。

○受験に向けての具体的な学習時間数や学習内容

1、2年生の時は定期テストに向けての勉強をするくらいで、本格的に受験勉強を始めたのは3年生になってからでした。夏休みに入るまでに英語であればLEAPを活用して英単語を暗記したり、数学では青チャートやサクシードで基礎を固めていき、夏休み期間中は苦手教科だった国語の勉強をしたり、志望校の赤本を1度解いてみたりしていました。秋からは物理や化学、地理の勉強を始めると同時に、共通テスト対策に切り替えていきました。私は化学が苦手だったため、無理に応用問題や発展問題をせず、参考書や日々の授業を通してもう一度基礎から見直し、共通テストで確実に点数が取れるように勉強しました。共通テストが終わってからはすぐに二次試験の対策に切り替え、過去問を何度も繰り返し、分からない所がなくなるまで復習しました。

○使用した参考書や問題集

私の場合、数学は青チャート、物理は物理重要問題集、化学は化学重要問題集を活用し、国語や地理、英語は共通テストの赤本や学校から購入した問題集を使っていました。

○学習面で悩んだこと、うまくいった点、後輩へのアドバイス

模試の成績ではいつも思うような結果が得られず、日々の学習においてもしんどく思うことが多々ありました。しかし、裏で支えてくれる家族や先生方の存在が励みとなり、本番では落ち着いて臨むことができました。

たとえ今後の学習においてうまくいかないことがあったとしても、やっていることに間違いはありません。努力した分だけそれが本番での自信となります。最後に悔いが残らないように頑張ってください。応援しています。

神戸大学 工学部 応用化学科

私が受験勉強を始めたのは二年生の二学期からです。そのころの模試の成績は偏差値が50 くらいで、神戸大学を合格するには、程遠い成績であり、また勉強しなければいけない科目数も多かったので、焦りを感じ受験勉強を始めました。しかし、そのころ私はバレーボール部に所属しており週に五、六回は部活があったため、家に帰ってからはあまり多くの勉強時間は取れませんでした。そこで私は、まず第一に学校生活での勉強時間を大切にしようと考えました。休み時間はできる限り英単語や古文単語を覚えるようにし、また授業時間内に授業の内容はしっかりと理解するようにしました。また、定期テストは、今まで習ったことの復習の機会であるため、しっかり対策して高得点を取るようにしていました。またこの時の勉強する科目は数学と英語を中心にしていました。私が本格的に受験勉強を始めたのは部活を引退してからです。引退してからは、学校のある日は、学校が終わってから六時間、学校のない日は、十三時間は勉強するようにしていました。初めは、長時間勉強することに、慣れていなかったもので、集中が切れてしまうこともありましたが、その時は軽く散歩したり、外の空気を吸ったりして、息抜きをしていました。休憩時間をしっかり入れながら長時間勉強することを続けることで、勉強する習慣が付き、長い間勉強しても苦痛に感じなくなりました。また途中で眠くなったときは、10 分間だけ寝るようにしました。短時間睡眠をとることはかなりすっきりするのでお勧めです。

最後に、アドバイスとして、まずできるだけ早く勉強を始めてほしいと思います。私は自分では早く始めたつもりでしたが、受験までに完璧にできなかった單元もありました。次に志望校を妥協してほしくないと思います。途中で志望校を下げると勉強のモチベーションも下がるし、だれてしまうと思います。そのため本当に自分の行きたい大学があるのなら、最後までそこを目指して死ぬ気で勉強してほしいです。頑張ってください。

信州大学 繊維学部 応用生物科学科

○進路決定の時期と方法

私は、薬剤師になりたかったので薬学部を受けることは入学前からすでに決めていました。具体的な学校を考え始めたのは2年生頃だったと思います。自分が将来どういう人になりたいのかを紙に沢山書いて、マナビジョンや大学のパンフレットをネットで見て自分の将来像に合う第一志望の大学を探しました。また、2年生の冬に参加させていただいた大阪大学の遺伝子組み換え実習を受けてから、遺伝学に興味を持つようになりました。初めは前期も後期も薬学部を受けようと考えていましたが、共通テストの結果を受けて前期は徳島大学薬学部、後期は信州大学繊維学部を受けることにしました。

後期の大学の決め手は、自分の興味のある分野の研究ができること、また理科の教員免許を取得したかったので教育学部に行かなくても教員免許が取得でき、そのサポートが充実している学校を選びました。

○受験に向けての学習時間や具体的な学習法

私は吹奏楽部に所属していたため引退時期が遅く、本格的に受験勉強を始めたのは9月後半でした。

私は塾に行っておらず、家に帰って勉強する癖もついていなかったのですがずっと学校の自習室で勉強していました。学校にいればわからないことがあってもすぐに先生に質問できるのでとても良かったです。また、数学と化学と英語のスパートゼミをとっていました。早く帰りたいと思ったり、予習復習がめんどくさいと思うかもしれませんが、私は取ることを強くお勧めします。科目の授業方針が私の時と一緒とは限りませんが、数学のスパートゼミが楽しかったです。

学習時間については、授業がある日は5時間、休日は10時間ほどしていました。時期によってあまり差はなく、9月から3月までこの時間数を勉強していました。ですが、勉強時間を多くすることを大切にするのではなく、勉強の内容の濃さを大切にしてください。多くの時間勉強しても身につかないことがあります。自分に身につく勉強の仕方と内容の濃い勉強をしてください。

学習方法については、模試でできないところを問題集で潰していました。あとは基本的に授業で出た課題などを一年生からコツコツ進めて定着させて行くことが1番大切です。基礎をしっかり積んでいれば、その基礎の思い出し作業と応用問題を解く練習をすれば大丈夫だと思います。2年生は1年生の時に積みきれていない基礎を積むこととこれからの授業をしっかりと聞き、基礎を積み上げてください。理系3年生は、数学と化学の基礎の積み上げを春休みのうちにしといてください。数Ⅲや無機化学・有機化学などが始まると

2年生までの復習をしている暇がなくなります。私もそれで大変なことになったので、2年生までの復習＋応用問題の練習を夏までにやっておくと少し楽だと思います。また、生物選択の子は教科書の内容を把握しているだけだと受験問題は解けません。教科書の内容を理解した上で、受験で出てくる問題を早めに解いて慣れておくことをお勧めします。

○使用した参考書・問題集

参考書はあまり使わず、基本的には教科書を使っていました。結局1番教科書がわかりやすいですし、使いやすいと思います。問題集は、数学は青チャート・化学はセミナーと重要問題集を使っていました。

○勉強面で悩んだこと、苦労したこと、その解決法

勉強をする時に1人だとどこかでしんどくなる時期が絶対にきます。同じように第一志望を目指している友達を作り、お互いに切磋琢磨し合える仲間を作ってください。励まし合いながら頑張ることで自分1人ではない、同じような仲間がたくさんいることで精神的にもしんどくならず済むと思います。

また、「今日は勉強無理だ!」と思う時は無理せず休むことも大切です。その代わり次の日いつもより濃いめに勉強すれば大丈夫です。たまにはリフレッシュしながら、楽しく勉強できる方法を自分で見つけてみてください。

○後輩に伝えたいこと

今から間に合うのかな、受験乗り切れるかなと思うかもしれませんが大丈夫です!やらなければいけないことをしっかりと把握し、計画を立てて勉強すれば着実に力がついてきます。学力が伸びない時期が出てきますが、あきらめずに勉強してください。現役生は試験前日まで伸びます。

大変なこともあるかもしれませんが、頑張ってください!応援しています。

筑波大学 生命環境学群 生物資源学類

ここでは主に（１）筑波大学を志望した経緯と（２）後期試験のためにやったこと について書いていこうと思います。

（１）筑波大学を志望した経緯

私が筑波大学の生命環境学群生物資源学類を受験しようと思ったのは高校３年の９月頃です。もともと私は「どこでもいいから医学部で！」というスタンスでした。しかし、夏休み中に自分の中で譲れないのは何かを考えたとき、１番に現役で国公立大学に合格したいという思いがありました。現役で国公立大学に受かるには、共通テストの点数次第で医学部は諦めないといけない。それなら、お医者さんにはなれないけどここなら楽しめそうだなあと思えるところに行きたかったので、他学部についても調べ、そして筑波大学の生命環境学群生物資源学類を見つけました。共通テストでこのくらいしか取れなかったら医学部は潔く諦めて筑波大学の生物資源学類を前期で受ける！という区切りをあらかじめ決めることで、自分で決めたラインに向かって必死に勉強できました。最終的に前期は医学部を受け、落ちてしまいましたが、自分なりに挑戦できたことの達成感＋後期も行きたいところだから頑張ろう！という気持ちでなんとか切り替えました。（ちなみに中期はあんまり思い入れなく選んだのでモチベーションが続かず、結局受けませんでした。やっぱりモチベーション維持のために大学調べは大切です）

（２）後期試験のためにやったこと

筑波大学の生命環境学群生物資源学類の後期試験は共通テスト 600 点、面接 400 点といった配点になっています。だから後期試験対策＝面接対策です。具体的には、過去にされた質問に対して自分なりの答えをノートに書いた後、その答えに対してきかれそうな質問を考えてまたその答えをノートに書いて……といったことを繰り返しました。自分が考えた答えに含まれている単語に意味が曖昧なものがあれば、きちんと調べ、ぱっと言えるように整理しました。（例えば、「ゲノム編集」という言葉を使うのなら、ゲノム編集とは一言でいうなら結局何をしているのか、遺伝子組み換えとの違いは？ 筑波大学で行われているゲノム編集を用いた研究の中で自分が興味のあるものはなんだろう… という感じで考えを深めていきました。）インターネット上の情報から、筑波大学の面接は質問の内容自体は一般的である（志望理由、学校生活について等）ものの、受験生の答えを深く追及する点に特徴があるなあと感じたからです。難しい生物単語をいっぱい知らなくてもいい（まだ高校生だから分からないことが沢山あるって試験官も分かっているはず！）。「自分はこんなことに興味があって、そのためにこれだけ（自分なりに）調べているんだよ！」っていうアピールが大事だと思います。

後期まで受験を続けるのは正直体力的にも精神的にも大変ですが、受かったときの嬉しさはひとしおです。最後まで諦めずに頑張ってください。

鳥取大学 農学部 生命環境農学科

○進学決定の時期と方法

第一希望は三年の初め頃に決めた。自分がやりたいことが農業についてで、特に土壌微生物などについて学びたいと思っていて、それを農学部で学べると知った。だから、それに合う大学をまずは近畿圏内で探して決めた。

○受験に向けての具体的な学習方法

受験を意識して勉強し始めたのは三年の夏頃からで、それまでは模試を解き直し、そこで間違えたところを教科書や問題集を通して復習した。時間は6～8時間ぐらい。11月ぐらいから共通テストの勉強をした。共通テストが終わってから二次対策をしていた。

○使用した参考書や問題集

英語は、河合塾とか予備校が出している長文の問題集や学校の長文のやつ、大学の過去問を使っていた。それ以外の教科は全て学校で買った教材を使っていた。

○悩んだこと、アドバイスなど

勉強のモチベーションが下がってしまう時にどうしたらいいかわからなくなった。そういったことを友達と共有したりすることで、共感したりアドバイスなどが出たりするのでいい方法だと思った。進路のことで悩んだり、辛いと思った時にはすぐに担任の先生や自分の接しやすい先生に相談することがとても大事だと思ったし、それで自分も助けられることがたくさんあった。僕は電車通学だったが、登校で電車の中で習慣として英単語見たり古単を見たり漢文必見を見たりすることを一年の頃からしとけばよかったと若干後悔している。

毎日どの教科でもいいので、今日やった範囲のことをしっかり復習することが大事だなと思った。二次の過去問を解いた時に赤本には配点ののってなくて、先生に配点をつくってもらって採点することで今自分が大体どれくらい取れているかを確認できたのはとてもよかった。

京都府立医科大学 医学部 看護学科

○進路決定の時期と方法

私が京都府立医科大学を受験しようと決めたのは3年生の夏休みです。1年生の頃から名前だけは知っていて、なんとなく意識していた大学ではあったのですが、3年生の夏休みにオープンキャンパスに初めて参加した時にアットホームな雰囲気に魅力を感じて府立医大に行きたいと思いました。

○受験向けての具体的な学習方法

1、2年生のうちは課題を提出期限までにおわらせるのに必死で定期テストの勉強はほぼしていませんでした。前日や当日の朝につめこむことも多かったですが、普段の授業や小テストをきちんと頑張っていればなんとかなります。

3年生になり部活を引退すると放課後がまるまる勉強に使えるので、今まで受けた模試のやりなおしをじっくり時間をかけてやりました。数学と科学基礎、生物基礎が苦手だったのでその3科目だけに絞っていました。10月に入ると学校推薦型選抜の対策として英語と国語の小論文の練習も始まりました。先生に過去問を出してもらったらその日にやって次の日に提出し、添削を待つ間に模試のやりなおしを進める…といった形で勉強していました。小論文はコツをつかむまでは制限時間内に完成できず、毎回半泣きで解いていました。

○使用した参考書や問題集

3年間で受けた模試、LEAP、日本史10分間テスト、学校推薦型選抜の過去問

○悩んだこと、アドバイスなど

特に3年生の夏休みが明けてからは焦ること、落ち込むことばかりです。不安になった時は好きな教科をやると少し自信がつくのでオススメです。また、私は早寝早起きが苦手な部活を引退するまでは午前中は寝られるだけ寝て夜は起きられるだけ起きる、という生活をしていましたが、ちゃんと勉強をして志望校に合格したい、と思うようになってからは22時に寝て5時に起きるようにしていました。朝起きて30分は目をさますためにもスマホいじりまくってました。(時間絶対決めていじってください！)

○最後に

受験当日は、友達や先生からの応援メッセージや今まで自分が解いたノートなどを持っていくとすごく力になります。自分のできる精一杯を毎日続ければ、きっといい結果につながります！応援しています！！

京都府立大学 生命環境学部 生命分子化学科

○進学決定の時期と方法

大学を決めたのは3年生の5月頃、どこか目標を決めた方がいいと思ってとりあえず決めました。本格的に決定したのは夏休みにオープンキャンパスに参加した後。行きたい研究室に出会ったからです。学部は変えませんでした、学科を改めて決定しました。

○受験に向けての具体的な学習方法

1、2年生の時は定期テストや小テストは真面目に取り組んでいました。3年生になってからは、平日は最低4時間、休日は8時間を目標に勉強しました。5月初めくらいからQスクエアで毎日30分、朝勉強するようにし、自分が苦手な教科や模試のやり直し、授業でもらったプリントの確認等をしていました。

部活引退後、模試の復習に力を入れ始めました。解説を見てわからないところや思い出せないところは教科書で見て確認し、学校の先生や塾の先生に聞いていました。＋スパートゼミ(英語、化学、生物) 学校や塾の自習室は積極的に利用していました。その代わり家では携帯を自由に使ってストレスを減らしていました。

夏休みは学校の夏期講習(英語、数学、化学、生物、地理)をとっていました。英語、数学は予習が大事です。講習がない時→午前中は英語、単語や熟語は読み上げて聞きながら覚えていました。午後は主に理系教科で数学は基本問題だけをしていました。化学と生物の勉強も本格的に始めました。夏休みは受験前に1番時間がある時期、自分が苦手な範囲や覚えてないところを詰め込みました。

○推薦入試について

入試は約1ヶ月前から対策。私の場合、筆記試験と面接(個人と集団)でした。筆記試験は英語、数学、化学、生物、物理(選択問題なし)でした。対策は英語、数学、化学を中心に勉強し、過去問(6年分)をひたすら解きました。面接練習は毎週していました。私の場合、面接に苦戦していたので早くに対策しておいて良かったと思いました。推薦入試は志望動機が弱いと確実に落ちます。早いうちに自己分析しておくといいです。私は模試ではずっとE判定、直前でやっとD判定でした。推薦入試は一般では受かる確率が低くてもやる気があれば受かることがあります。やりたいことが明確にある人にはおすすめです。

○使用した参考書や問題集

全て学校の問題集

○最後に

3年生の春くらいに赤本を見ました。早くに受験科目や傾向を知っておくと対策がしやすくなります。勉強のやる気が起きない時は好きな教科から始めると集中できます。苦手な教科はやり続ければ理解できて楽しくなる時がきます。私は英語、数学が苦手でした。英語は3年生になってすぐくらいに、英語の先生におすすめの辞書を聞いて購入、単語は英文を読みながら、分からない単語は単語帳で確認、単語帳になかったら辞書で確認して付箋を貼っていました。数学は基本問題を解いて基礎固めをしました。志望校は早く決定した方が受験のモチベーションになります。ですが、ギリギリまで教科は絞らない方がいいです。

夏休み前に化学基礎の問題集を一周しました。化学はギリギリまで授業があります。自分で進めておくと楽になります。模試は10月になって急に伸び始め、最終的には約1年間で100点以上伸びました。勉強の成果はすぐにはできませんが確実に蓄積されています。こつこつ頑張れば絶対に伸びる時がきます。折れずにがんばってください！